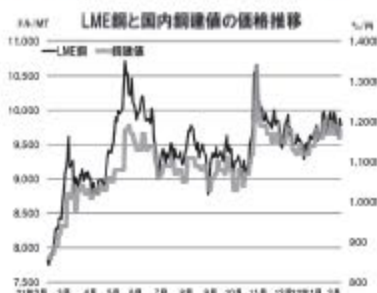


関西銅 保合いも品薄で高値寄り商状続く

(大阪) 関西地区の銅スクラップ相場は様子見保合い。建値は先週3日にキ、1,180円に反発し高値圏を維持するが、市中扱い筋らは値動きの荒い海外相場にやや困惑気味で先行き不透明感は拭えないようだ。ただ、市中の荷動きが低迷したままで問屋筋の大半が必要数量の確保に苦慮。足元は相場リスクより現物最優先の姿勢が目立ち、高値寄りの商いが一般化している。

銅スクラップの市中実勢価格(関西地区)は4日時点では1号銅線が1,050~1,065円、上銅新切が1,025~1,035円、並銅が955~965円、下銅が925~935円、黄銅削り粉は715~725円見当。

メーカーと長期契約を結ぶ問屋筋では契約数量分の確保に向け高値提示が目立ち、特に1号銅線などワ物系品種にその傾向が強い。ある問屋筋は「建値の上昇時は上げ幅を大きくし、下落時は下げ幅を抑え気味に



している」と語る。ただ、発生薄に改善の兆しは見られず苦戦を強いられたままで、ある直納筋は「建値が目先120万円を回復すれば多少売り込みも期待できそうだが、売り手の強気姿勢は変わらない見込みで折り合いの付きにくい商状が続く」と嘆く。

直近のLME銅価格(セツルメント)は9,700ドル前後を一進一退で方向感が定まり難い展開だ。ただ、指定在庫の減少傾向や供給懸念で目先も大崩れはなく上値を試すとの見方が根強い。中国の春節明け後の値動きに注目が集まるところだ。

LME相場、他(現地3日)					
	3日前場	前日比(円/t)	在庫量	前日比	前月平均
銅	9,785.00	-95.00	82,400	-2,475	9,775.93
鉛	2,229.00	-18.00	52,425	-50	2,342.70
亜鉛	3,618.00	-32.00	154,200	-450	3,609.95
アルミ	3,058.50	15.50	781,900	-325	3,003.08
ニッケル	23,225.00	-175.00	88,182	-426	22,326.00
錫	43,560.00	-190.00	2,475	10	41,807.00
金(NY)	1,804.10	-6.20	-	-	1,817.40
原油(NY)	90.27	2.01	-	-	83.02
銅TTS(円/t)	116.01	0.55	-	-	115.85

※金は1troy ounceあたり※原油は1バレルあたりの22年3月製為替は日本時間2月4日のTTS

2月の銅・アルミスクラップ市況見通し

非鉄金属リサイクル全国連合会 橋本健一郎会長(橋本アルミ取締役)



かず、当面はお互いの引かない演出が続くと見ている。

一方、米中の金融政策の動向については、中国が北京オリンピック終了後に経済再生のための生産再開、金融緩和を実施する可能性は高いと予測する。ただ、米国では米連邦公開市場委員会(FOMC)が3月の金融引き締め策を示唆。インフレが米市民の生活に影響を及ぼしているため、引き締めは実施される可能性が高いと言える。

それらを踏まえ、2月のLME銅価格(セツルメント)は9,500~10,500ドル、銅建値は110~115万円/ト程度。LMEアルミ価格(同)は2,900~3,100ドルのレンジで、スクラップ購買価格は前月最終価格より据え置きから+10円程度とそれぞれ予測している。また、為替は1ドル=110~115円(1か月間TTM)程度を想定

している。

国内指標を見ると、12月の伸銅品生産量は前月比7.0%減少したが、前年同月比では7.2%増加した。部品調達遅れからの自動車生産減に歯止めが掛かるのかどうか注目したい。アルミ二次地金・合金地金等の12月生産実績は前年同月比6.5%減の6万1981トで3か月連続のマイナスだった。今後、いつプラスに転じるかを注視したい。

スクラップの景況感としては、銅スクラップの流通在庫(一次問屋)は銅建値が118万円~120万円と結果的に高値安定となったが、コロナ禍による生産減でスクラップの発生は薄く、各問屋筋の在庫は希薄。需要面については自動車の減産基調は気掛かりだが、伸銅品は挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。定期物が入らないメーカーの高値買いは今月も続くと見ている。

アルミスクラップについては、LMEアルミ価格が2,800~3,100ドルに高騰したが、自動車や住宅着工数の減少からスクラップは売りにくい半面、問屋筋への入荷も少ない。需要面に関しては北京オリンピック終了後に中国の挽回生産が見込まれることからメーカーの需要も回復すると見ている。